

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

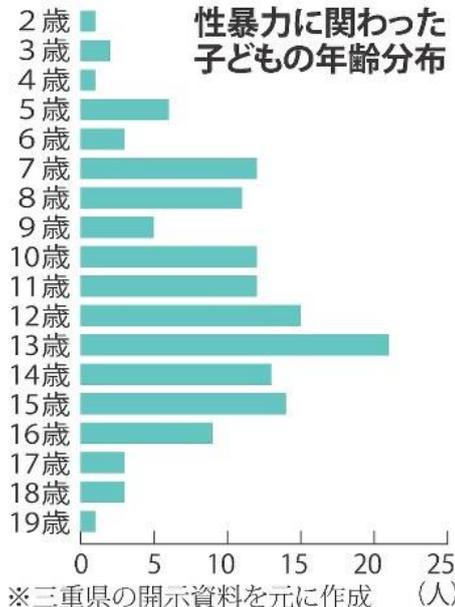
知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4397 号 2018.5.24 発行

子ども間性暴力 報告制度なし 施設内の実態把握へ 厚労省が初の調査 三重県データ「7%が経験」 毎日新聞 2018年5月23日
三重県が開示した児童養護施設内の性暴力などの資料



親元で暮らせない原則18歳未満が生活する児童養護施設などでの子ども間の



性暴力について、厚生労働省が今年度、初の実態調査に乗り出す。性暴力は表面化しにくく、被害を受けた子が加害者になる「連鎖」も指摘され、問題は根深い。過去の事件を教訓に、実効性のある啓発や教育に取り組む施設もある。【藤沢美由紀】

「上級生の部屋に呼ばれて殴ると脅され、性的なことをさせられた」「(同じ男性の)上級生からレイプなどの暴力を受け、男性への恐怖で満員電車に乗れなくなった」――。これらは、児童養護施設の出身者から、民間団体「施設内虐待を許さない会」に寄せられた相談の一部だ。

児童福祉法では、職員や里親らから子どもへの虐待について都道府県への報告や公表が定められているが、子ども間の暴力に関する規定はない。問題が起これば各施設が都道府県に報告することになっているものの、公表義務もないため、全体像は分かっていない。

そうした中、三重県が開示した資料が関係者の注目を集めた。2008～16年度、県内の児童養護施設などで暮らす子どもの7%に相当する年間約30人が性暴力に関わっていたとの報告だ。性器を触られるなどの事案が111件あり、被害者と加害者は合わせて274人に上る。08～12年度の51件の分析では、2歳から19歳まですべての年齢に被害者か加害者がおり、同性間の性暴力も20件あった。

同会の竹中勝美事務局長は「施設では被害を受けた子が、次はより弱い立場の子への加害者となる。明らかになった数字は氷山の一角だ」と指摘する。

この資料は、同県名張市の施設で、入所していた少年(当時13歳)から女兒(同7歳)がわいせつ行為を受けたとして、母親が県と少年らに賠償を求めた裁判の中で明らかになった。母親は長女が施設内の学習室などに呼び出され、服や下着を脱がされたり性器を触られたりしたと訴え、津地裁は17年に少年の親に180万円の支払いを命じた。

母親によると、長女は今は家で過ごしているが、つらいことを忘れようとする「解離」の症状が出ており学校にも通えていない。一方、加害少年の親は、裁判の途中で居所不明となった。少年は親の暴力で2歳から入所していたが、親は面会にも来ていなかったという。

こうした動きを背景に、厚労省は初の調査実施を決めた。有識者らによる委員会を設け、調査の内容や手法を検討。夏～秋ごろに調査を実施し、結果について委員会から意見も聞く予定だ。担当者は「加害の捉え方は難しいが、子どもを中心に考え、慎重に調査したい」と話す。

1 審判決後の昨年9月に「みえ施設内暴力と性暴力をなくす会」を設立した母親は「性暴力への対応や予防、被害者支援のためにも実態把握が必要だ。報告義務などを法整備してほしい」と訴える。



教育、心のケアで再発防止 千葉・一宮学園、事件教訓にプログラム

子どもに生い立ちなどを考えさせるプログラムの教材を手にする一宮学園の山口さん

千葉県一宮町の児童養護施設「一宮学園」は、過去に起きた性暴力事件をきっかけに、再発防止へ力を入れるようになった。副施設長の山口修平さん（40）は、園内にとどまらず、全国の他施設への研修にも年50回ほど飛び回る。

学園で中学生から4歳男児への性暴力が発覚したのは07年。加害者は4人、被害者は36人に上った。その7年前から施設で働き、当時は男子寮を担当していた山口さんは、気付けなかった自分を責めつつ、再発防止に実効性のあるプログラム作りに取り組んできた。

現在、学園では原則年13回の性教育を実施。繰り返すのは「全員が知らないと被害は防げない」と考えるからだ。小学校低学年には、触られてはいけない体の部分や対処を分かりやすく示した「いいタッチわるいタッチ」をオリジナルの絵で説明。高校生には避妊やデートDVについて教え、卒業前には性産業の求人誌を見せて少女らが搾取される実態も伝える。

山口さんが大人にも子どもにもよく話すのが「怒りのコップ」のたとえだ。コップはストレスの受け皿を意味する。人は適切な養育を受ける中で、感情を調整する力を育み、多少の圧力も柔軟に受け止められるようになる。だが施設に入所する子の多くは、親からの虐待などで感情調整の力が弱く、受け皿が薄いガラスのコップのようにもろい。親の離婚や転居などでストレスを抱える時にわずかなストレスが加わるだけで、コップが砕けて暴力などの問題行動として表れる。

思春期前に、こうした怒りの仕組みを教えるとともに、自身の生い立ちを整理させて「あなたは悪くない」と伝えていくことで、ストレスへの対処法が身につくと山口さんは考える。「性暴力は『力を誇示する表現』。加害児童は傷つけられても十分な手当てを受けてこなかった子だと捉えてきちんとケアすれば、虐待は連鎖しない」

子どもたちへの定期的な聞き取りで被害の早期発見に気を配るのも重要だ。山口さんは「どの子どもも安全で安心な生活を送れないといけない」と指摘する。

児童養護施設で子ども間の暴力が明らかになった主なケース

2000年 高知県で中学生以上の男子による小学生ら5人への性的な行為が発覚

03年 福岡県の弁護士が「施設の年長児が年少児を支配・服従させ、子ども同士の暴力が発生している」と人権救済を申し立て

04年 施設内で少年が4人から集団暴行を受け後遺症が残った事案で名古屋地裁が愛知県に損害賠償を命じる判決

08年 栃木県が「上級生から下級生へのいじめがありながら職員が対応しなかった」

として県内の施設に是正改善を指導

■ことば 児童養護施設 虐待や親との死別などで家庭での養育が困難になったおむね2～18歳の子どもが暮らす福祉施設。厚生労働省によると、2017年時点で全国に615カ所あり、約2万6000人が生活する。近年は虐待を受けていた子が増え、全体の約6割に上る。職員数は約1万7000人。

ひきこもり経験者の全国組織が発足 ポータルサイト「ひきペディア」も公開



福祉新聞 2018年05月22日 編集部
左から林副代表理事、森下徹理事（兵庫）、割田大悟理事（神奈川）、川初真吾理事（東京）

ひきこもり経験者らによる初の全国組織となるNPO法人「Node（ノード）」（田中敦・代表理事、東京都）がこのほど発足した。7日には、ひきこもりに関する総合情報ポータルサイト「ひきペディア」を公開。国内には自分の居場所を見つけにくい人がたくさんいるとみて、孤立の解消を目指す。

法人の理事らが同日、厚生労働省内で記者会見した。自助グループの設立や運営に関する相談に応じるほか、ひきこもりに関する講演、調査、研究、政策提言にも取り組む。

不登校経験者で副代表理事の林恭子さん（51、ひきこもりUX会議代表理事・神奈川）は会見で「国や地方自治体による就労支援はこの20年間、うまくいかなかった。働くことのもっと手前にある外出などの支援が必要だ」などと語った。

Nodeは英語で「結び目」を意味し、北海道、青森、東京、神奈川、大阪、兵庫、香川で活動する9団体の代表が理事に就いた。設立は4月19日付。

ひきこもりとは仕事や学校に行かず、家族以外と交流しない状態が6カ月以上続くことを指す。2015年に内閣府が行った調査では15～39歳で、推計54万人。内閣府は18年度、40～59歳を対象とした実態調査を行う。Nodeは40歳以上を含めると100万人を超すとみる。

旧優生保護法 強制不妊手術 県に366人分記録 /福島

毎日新聞 2018年5月23日

旧優生保護法（1948～96年）のもとで障害者らに強制不妊手術が繰り返された問題で、県に366人分の手術記録が残されていたことが22日、分かった。毎年度発行する県の統計資料（衛生年報）で、53～80年度分に人数だけ記載されていた。年齢や性別などは不明という。

ただ、旧厚生省の記録などには378人が手術を受けたとされている。さらに手術の適否決定通知書などの資料から個人名が分かる資料が120人分残っていることが判明している。県によると、衛生年報は年度によって欠落しているものもあり、366人との関連は不明としている。

県子育て支援課では相談窓口を設置、21日までに親族から1件の相談があった。同課は「本人と面談し、丁寧に対応したい」としている。【柿沼秀行】

認知症になってもいいんだよ、講演で啓発する介護指導者 石原幸宗

朝日新聞 2018年5月23日

「認知症になったってええら（いいんだよ）」。静岡県西伊豆町仁科の認知症介護指導者、

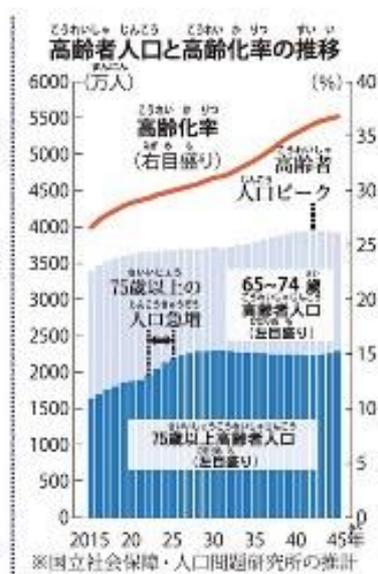
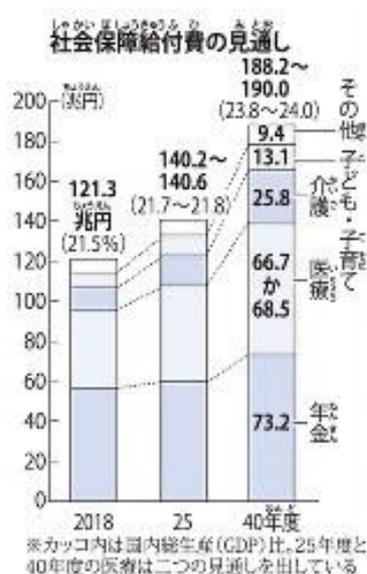
和田博之さん（40）が、認知症の啓発講演でそう言って回っている。最近でこそ、認知症の当事者本人が発言する機会が増えたが、啓発活動では「どう予防するか」に偏りがちだという。「何もわからなくなる」「人生は終わりだ」という偏見も根強い。その偏見をなくせば、認知症になっても自分らしい人生が送れる、と伝えたいのだ。



「認知症になってもその人らしい生活ができる」と講演する和田さん＝2018年4月25日午後2時36分、静岡県西伊豆町宇久須

4月下旬、同町宇久須の公民会。和田さんは、集まった20人ほどのお年寄りに「認知症になったら、問題行動を起こす人と警戒される町に住みたいですか。それとも認知症を理解して寄り添ってくれる町に住みたいですか」と問いかけた。もちろん全員が「寄り添ってくれる町」と答える。

続けて「認知症は忘れてしまう病気です。適切にサポートを受ければ、普通に生活できるし、できることはたくさんある」とわかりやすい例を挙げながら説明していく。そして「認知症の人が周囲を戸惑わせるのは、忘れてしまって不安になるから。その気持ちを分かってあげれば安心して平穏になれる」と指摘した。



政治 社会保障給付 2040年度予想を初公表 毎日小学生新聞 2018年5月23日

政府は21日、国民が年金や医療、子育てなどのサービスを受けるのにかかる「社会保障給付費」について、2040年度の予想額を公表しました。総額は190兆円に上り、今年度と比べて68兆7000億円も増えます。

政府はこれまで、人口の

多い「団塊の世代」（1947～49年生まれ）がすべて75歳以上となる2025年度までの金額を予想していて、40年度の予想額を示したのは初めて。40年度ごろは「団塊ジュニア」（1971～74年生まれ）が65歳以上となり、お年寄りの人口がピークとなる一方、働く現役世代が急に減る時期に当たります。このため、介護の金額が2・4倍にふくらみ、年金や医療の金額も増える見通しです。

妊娠・出産時から成人するまでの間、子どもが健全に育つための医療環境の整備を促す「成育医療等基本法」の成立を目指し、超党派の国会議員連盟が22日、院内で設立総会を開いた。少子化が進む中、子どもの健やかな成長が重要だとして、教育や福祉とも連携した医療・保健サービスの提供を国や自治体、医療従事者の責務とすることなどを求める。今秋の臨時国会への法案提出を目指す。

この日の会合で呼びかけ人代表の河村建夫衆院議員（自民）は「妊娠期から子育て時の切れ目のない支援を形成し、社会全体が子どもを育てていくための基本的な法律にしたい」と述べた。【野田武】

【大弦小弦】100年前の報告書が色あせることなく迫る...

沖縄タイムス 2018年5月18日

100年前の報告書が色あせることなく迫る。「この国に生まれた不幸」はなぜ変わらぬのか▼完成試写会で見た66分のドキュメンタリー映画「夜明け前」は、いや応なく私たちに問いを突き付ける▼東大医学部教授だった呉秀三は、精神疾患のある人々が自宅の檻（おり）などに隔離された私宅監置の実態を調べ、1918年に報告書をまとめた。「わが邦十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸の他に、この邦に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」。有名な一節もそこにある▼教え子の証言や欧州留学先の現地取材などを通して、精神障がい者の救済に生涯をささげた呉の人間像が浮かび上がる。撮影班は座敷牢（ろう）の跡が残る沖縄でもロケを考えたが、米軍統治下で私宅監置が本土復帰まで続いた歴史や、遺構を所有する遺族の複雑な心情に接し、勉強不足を感じて撮影を控えた▼最近でも、精神疾患のあるわが子を自宅の小部屋に監禁したとして大阪や兵庫で刑事事件になった。変わらぬ現実の根底に流れるのは、人に優劣をつける優生思想か、それとも、効率性や生産性もてはやされる現代社会のひずみか▼有名な一節には続きがある。「精神病者の救済・保護は（略）わが国目下の急務と謂（い）わざるべからず」。焦眉の急と言われて1世紀。夜明けはいつ訪れるのか。（西江昭吾）

博多区 公園遊具の魅力に迫る...無料冊子好評

毎日新聞 2018年5月23日

福岡市博多区が3月に発行した公園遊具の魅力を紹介する無料冊子「博多の遊具」（A5判7ページ）が好評だ。800部を印刷したところ月内に無くなり、更に800部を増刷。博多区内の公園を中心に、レトロな雰囲気や動物遊具の表情に着目するなど個性的な内容になっている。【蓬田正志】

製作したのは公園の遊具点検や植栽剪定（せんてい）などを担当する区維持管理課職員の本山佑介さん（29）。昨年4月に着任した本山さんは、公園を歩き回るうちに同じ遊具にも表情やデザインに個性があることに気付き、製作を思い立った。



博多区役所などで配布されている「博多の遊具」=博多区役所で2018年5月17日、蓬田正志撮影

休日などを利用して自ら写真を撮影。冊子では、丸々としたライオンの置物や前後に動く芋虫のスイング遊具など可愛い遊具を特集したほか、宇宙船がモチーフのジャングリズムやカラフルな土管など「インスタ映え」する遊具も紹介。JR博多駅から散策できる遊具のある公園巡りコースも掲載した。配布後、市民から「表紙に載っているライオンはどこに置いてあるのか」という問い合わせがあったという。

同課は「冊子を通じて公園に親しんでもらい、多くの利用につながればうれしい」としている。

冊子は博多区役所や区保健福祉センターで配布しているほか、ホームページからも入手できる。問い合わせは維持管理課公園係092・419・1063。

第31回『サラリーマン川柳』大賞決定「スポーツジム 車で行って チャリをこぐ」【ベスト10発表】

オリコン 2018年5月23日



第一生命は23日、今年で31回目となる恒例の『サラリーマン川柳コンクール』のベスト10を発表。栄えある大賞は、矛盾（むじゅん）を面白く詠んだ「スポーツジム 車で行って チャリをこ

ぐ」（作者：あたまで健康追求男・60代／男性）に決定した。

同作品は、運動するために通っているはずのジムの行き帰りは、車を使うという様子を自虐的かつコミカルに表現した作品として「まさにそのとおり！（20代）」「あまのじゃくでクスッと笑えて共感した（30代）」「あるあるなのにユーモラス。皮肉もあってベスト！（50代）」と年代を問わず多くの共感を得た。

今年度は特別企画として作品を募った「健康第一部門」の効果もあり、健康を意識した作品が大賞に選出されるなど、人々の健康に対する意識の高まりがうかがえる結果となった。そのほか、「顔認証」や「電子化」など最新テクノロジーを用いた川柳も寄せられるなど、サラリーマンの悩みもデジタル化へ。最近の潮流である「働き方改革」にちなんだ自虐ネタもベスト10にランクインした。

毎年たくさんのサラリーマンたちの悲哀が届く同コンクール。第31回目は、昨年9月から11月にかけて、全国の幅広い世代を対象に募集し、応募作品数は4万7559句。今年2月に全国優秀100句を発表し、それらの作品を対象に、8万4000人を超えるサラ川ファンの投票により、ベスト10が決まった。

■全国投票結果 TOP10

作品（雅号／年代／性別）

- 1位『スポーツジム 車で行って チャリをこぐ』（あたまで健康追求男／60代／男性）
- 2位『「ちがうだろ！」 妻が言うなら そうだろう』（そら／40代代／女性）
- 3位『ノーメイク 会社入れぬ 顔認証』（北鎌倉人／50代／男性）
- 4位『効率化 進めて気づく 俺が無駄』（さごじょう／30代／男性）
- 5位『電子化について行けずに 紙対応』（トリッキー／50代／男性）
- 6位『「マジですか」 上司に使う 丁寧語』（ビート留守／70代／男性）
- 7位『父からは ライン見たかと 電話来る』（アカエタカ／60代／男性）
- 8位『「言っただろ！」 聞いてないけど 「すみません」』（中っ端／40代／男性）
- 9位『減る記憶 それでも増える パスワード』（脳活／20代／男性）
- 10位『ほらあれよ 連想ゲームに 花が咲く』（さっちゃん／50代／女性）

■年代別でみるサラ川ベスト3

今回の投票結果を年代別の得票数で見ると、年代による立場の違いが浮き彫りに。例えば、20代～30代は「AI」や「SNS」などについていけない親世代を憂い、その親世代である40代以上は自分自身が最新機能についていけない焦りを感じている心情などが表現された。

また、働き盛りの20代～50代は「効率化」のプレッシャーも感じている様子もうかがえた。そのほか、年代を問わず共感を集めたのは『「ちがうだろ！」 妻が言うなら そうだろう』。いくつになっても家庭では妻へ頭が上がらないという、日常も映し出された。

▽20代・30代のベスト3

- 1位『「ちがうだろ！」 妻が言うなら そうだろう』(そら/40代代/女性)
- 2位『効率化 進めて気づく 俺が無駄』(さごじょう/30代/男性)
- 3位『父からは ライン見たかと 電話来る』(アカエタカ/60代/男性)

▽40代・50代のベスト3

- 1位『効率化 進めて気づく 俺が無駄』(さごじょう/30代/男性)
- 2位『電子化に ついて行けずに 紙対応』(トリッキー/50代/男性)
- 3位『「ちがうだろ！」 妻が言うなら そうだろう』(そら/40代代/女性)

▽60代以上のベスト3

- 1位『スポーツジム 車で行って チャリをこぐ』(あたまで健康追求男/60代/男性)
- 2位『減る記憶 それでも増える パスワード』(脳活/20代/男性)
- 3位『「ちがうだろ！」 妻が言うなら そうだろう』(そら/40代代/女性)

「参加の力」が創る共生社会 市民の共感・主体性をどう醸成するか ミネルヴァ書房

共生社会構築のための基礎的知識や市民が主体的に社会を変えるために必要な視点を昨今の事例を踏まえ、わかりやすく解説

著者 早瀬 昇 著

出版年月日 2018年06月10日

ISBN 9784623083381

判型・ページ数 A5・256ページ

定価 本体2,000円+税

内容説明

ユーモラスで「タメ」になる。

マネジメントの「キモ」はボランティアにあり。「共感」「参加の力」を産まない組織・社会は滅ぶ。

社会活動家・法政大学教授 湯浅 誠氏推薦

「市民自治社会」の基盤となるボランティアの定義、ボランテ

ィアと自治体・企業・NPO等の各種団体との連携体制をどう構築すべきか等の基礎的知識をはじめ、市民が主体的に社会を変えていくために必要な視点や考え方を、昨今の事例を踏まえ、わかりやすく解説。より効果的・創造的に活動を進めたいボランティア・NPO関係者、住民がより主体的に地域活動に取り組むための支援をしたい自治体職員、市民活動との協働を進めたい企業CSR関係者に読んでほしい一冊。

◎ ボランティア現場の第一線で活躍してきた著者による書き下ろし。

◎ 自治体・企業等の所属員も市民であるという点と、様々な団体と連携する意義を、長年の経験を基にわかりやすく解説。

目次

まえがき

序 章 「参加の力」の素晴らしさ

- 1 「参加の力」が発揮される多彩な取り組み
- 2 自治と共生の視点を伴った社会づくりへ

第1章 ボランティアはネコである!?!—共に自主・自律が基本

- 1 ボランティアは苦役? いいえ、一種のレジャーです
- 2 学生のボランティア活動への関心が相対的に“低い”理由は?
- 3 ボランティアの基本は“自主・自律”

第2章 ボランティアは恋愛に似ている!?!—違いは「公共性」の有無のみ

- 1 日々の暮らしの隣にある市民活動—「私」を「開く」と公共的になる
- 2 「公」と「私」の違いから読み解く民間公益活動の動機
- 3 「ボランティア≒恋愛」論

「参加の力」が創る 共生社会

市民の共感・主体性を
どう醸成するか

早瀬 昇 著



- 第3章 「官尊民卑」からの出発——阪神・淡路大震災以前
- 1 公共活動は行政の専管事項！？
 - 2 「公私協同」論の登場と「ボランティア推進政策」
- 第4章 「無償」の意味と多様な活動
- 1 「ボランティアは無償」となった経緯
 - 2 無償の取り組みの積極的な意味
 - 3 いわゆる「有償ボランティア」をめぐる議論
 - 4 NPO（非営利組織）と市民活動の関係
 - 5 「時間預託」「地域通貨」などの取り組み
 - 6 「営利を目的としない」姿勢の象徴、ボランティアの参画
 - 7 「交換条件つき報酬」が意欲を下げる！——『モチベーション 3.0』の指摘
- 第5章 「自発性」の持つ力——市民活動は行政を超える
- 1 「自発」の取り組みゆえの強み——市民と行政の取り組みの違い
 - 2 「市民の参加」ならではの意味——「当事者意識」を広げ、市民の自治力を高める
 - 3 人を取り巻く4つの関係
 - 4 活動する人自身も元気になる
- 第6章 「強み」が「弱み」に——自発的社会活動の弱点
- 1 「ボランティア拒否宣言」から学ぶこと
 - 2 独善化とマンネリ化——客観的評価システムにさらされない弊害
 - 3 自発性パラドックス
 - 4 応援を求める人をどう見るか？
- 第7章 市民活動のための法人格誕生——特定非営利活動促進法の成立
- 1 100年続いた制度が大改革された理由
 - 2 特定非営利活動促進法の成立
- 第8章 「参加」は“商品”である——「参加の機会」を提供して「自立」する NPO
- 1 参加の受け皿となっているか？
 - 2 「自立観」を変えよう——「他者に頼らない」ではなく「参加の機会を提供する」
 - 3 「参加」が生み出す7つの変化
 - 4 財源論から見た共感的支援者の立ち位置
- 第9章 「参加」が進む組織づくり
- 1 「モチベーション 3.0」
 - 2 「やる気」を高める3つのポイント
 - 3 「自律性」を高めるには——参加型の組織づくり
 - 4 創造的で懐の深い組織となるために
- 第10章 寄付税制と公益法人制度改革の変遷——市民活動の制度的位置づけ
- 1 認定特定非営利活動法人制度
 - 2 公益法人制度改革
 - 3 政治活動に関する規制
 - 4 NPO 法人か一般法人か？
- 第11章 「協働」の時代——弱みを理解し合い強みを出し合う
- 1 連携しないと解決できない課題群
 - 2 連携にあたっての姿勢
 - 3 営利セクター（企業）との協働
 - 4 政府（行政）セクターとの協働
 - 5 マルチステークホルダー・プロセスとコレクティブ・インパクト
 - 6 市民がつむぐ自治と共生の社会
- あとがき 参考文献 索引
- コラム
- 1 「不幸産業」ということ
 - 2 「心」はどこにあるのか？
 - 3 「NPO 3.0」を目指そう！
 - 4 「嫌だったらやめてもよい」ということ

